

2023年4月29日

12代西村總左衛門宛書簡の翻刻実施報告

－榊原文翠書簡など－

岩元綺海 佐藤瞭 吉近萌々果

◆はじめに

昨年後期の授業の中で12代西村總左衛門宛書簡の翻刻を行った。それらの中から3点の史料の翻刻から読み取れた内容と気づいたことなどについて報告を行う。

◆植村(?)から西村への書簡(2-16)

年代：明治時代

内容：植村と思われる人物から12代西村總左衛門に宛てられた書簡。依頼していた額の文字の色や表現などについての要望が記されている。7行目には「四月廿九日」と日付がある。また、三井八郎右衛門の名前が挙げられている。

→ホームページなどで公開されている千總の年表などから、12代西村總左衛門が就任して以降の千總ではビロード友禪の生産が盛んになっていたことがわかった。また、書簡の内容の文字の表現という部分に言及していることなどからこれは着物ではなくビロード友禪についての依頼なのではないかと推察した。7行目の日付は納品日もしくは連絡日ではないかと思われる。書簡の中に出てくる三井八郎右衛門との関係についてはわかっていない。ここに出てくる三井八郎右衛門は三井総領家の第10代当主であった三井高棟(1857～1948)のことではないかと考える。三井家は文化・芸術の後援などをしてきたという面からも何かしらの関係があるのではないかと考えられる。

◆実母逝去に関する書簡(4-37)

年代：1893年3月～4月初旬

内容：12代西村總左衛門の実母である静枝が亡くなった際に榊原長敏から12代西村總左衛門に宛てられた書簡。榊原長敏が葬儀に参加できないという文面と共に和歌が添えられている。

→榊原長敏は千總の制作に関わっていたという点や12代西村總左衛門の実父であり儒学者の三国幽眠とも関わりがあったと考えられることから、実母の葬儀に出席するべきところを、出席することができないため、代わりに和歌を添えた書簡を送ったと考えられる。

◆シカゴ万博後の書簡(1-01)

年代：1893年11月1日

内容：12代西村總左衛門から事務総代に宛ててシカゴ万博終了後に書かれた書簡。帰朝前のあいさつや状況、博覧会での業績などについて報告している。6000ドル程しか売り上げが出なかったことなどが書かれている。

→シカゴ万博での売り上げはあまり良いものではなかったことがうかがえる。共に渡米したと思われる丹羽という人物もともに奔走しているといったことも書かれているため、あまり良い状態ではなかった様子が見られる。今回の博覧会の販売結果をもとに今後の販売に生かしていきたいといったような前向きな意見が記されていると考えられる。

